

## 1. 年頭のあいさつ (会長 今井 和男 記)

新年明けまして、おめでとうございます。会員の皆様には、ご家族おそろいで輝かしい新春をお迎えのことと、お喜び申し上げます。

昨年は、会員の皆様のご協力、ご支援により、活動等は円滑に実施出来ましたことを、心からお礼申し上げます。

さて、昨年の活動取り組み等を振り返って見ますと、

- 学童を含めた田植、稲刈り、餅つきの一連
- ソバの植付け、収穫から、ソバ打ち
- 諸設備の補修と環境の整備
- 里山自然観察隊の活動

等々で、なかでも、「合鴨農法」の維持管理につきましては、大変ご苦労が多かったと思います。活動のなかで、①会員の高齢化、②活動日の参加の減少化(低迷化)により、維持管理は必ずしも十分でないのが現状と思います。しかしながら、活動日以外の日に地元車地地域の会員による対応で、なんとか維持管理が出来たと思います。

一方、会報発行(78号～89号)は定期的に発行され、83号までの美濃和会員の「ビオトープ関連」の投稿は、大変ご苦労されたことと、深く敬意を表します。また各種団体の見学観察も毎年増加しており、これらの受入対応も円滑に実施されましたことに敬意を表します。

本年は、昨年、過去の活動を反省し、「ビオトープのコンセプト」を念頭に、可能な限り、活動の充実化を図りたいと思います。

最後に、「里山ビオトープ二俣瀬」の益々の発展と会員のご健勝を祈念し、あいさつといたします。

## 2. 活動報告 (事務局 記)

一 1月17日(土)今年度最初の活動 初集会を行いました。24名の参加を得まして今年度の活動方針を取り決めました。懸案事項が残りましたが、以下のように計画されました。

### I、平成21年度の活動方針

- a) 稲作(もち米)栽培 : 行う事になりました。  
通常農法(無機肥料、農薬使用)で行い、合鴨農法は中止になりました。
- b) 収穫祭(餅つき): 従来通り行うことになりました。
- c) そばの栽培と収穫祭そば打ち: 今年は中止することになりました。

### II、里山自然観察隊の継続問題

- a) 観察隊 : 従来通りとは改善された計画において実施することになり、2月1日(第一日曜日)活動日の午後、下記出席者によって協議する事になりました。

協議出席者 ①三役会長、副会長二名、事務局、②西原元隊長、20年度活動リーダー(美濃和、北村、寺森、藤井、松原、管、関根、潮村、原田賢、藤村、吉富)  
スタッフ(松本、中本、吉崎、藤井、小田、益田、若林)

### III、須賀河内川芦刈について

中国電力(株)宇部電力所に当会の問題点を述べ、同一日の作業としない方向で事務局が問い合わせることになりました。

- ① 刈りとりの時期: ホタル産卵、ふ化時期を外す事
- ② 草刈り機は会員となるので、規定活動日に芦刈を行い、後日片付けを依頼する。

IV、2月・3月の活動は主にきらめき財団助成金での修復作業となる。池ゾーンの観察橋の修復となります。

V、会報の件、「会員の声」は全会員の投稿を願います。

### 3. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

今月来月予定はありません。

◎ 行事

—2月1日（日）午前：維持活動 池ゾーンの散策橋の修復、  
午後：観察隊についての話し合い

—2月21日（土）維持活動 引き続き池ゾーンの橋修復、シガラ取り付け（止水池）  
エコアップ（湿地帯の一部掘り起こし）

### 4. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

今月はありません。

### 5. 会員の声（記）

今月はありません。

6. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) 管 哲郎

(8) カトリヤンマ (ヤンマ科) *Gynacantha japonica*

BARTENEV, 1909

成虫は7月～11月にかけて現れる中型のやや細めのヤンマです。秋の夕方によく明かりに誘われて家の中に入ってきて驚かされたりします。

日中は森や林の中にひそみ、夕暮れになると活発に動き始め、黄昏飛翔するトンボです。日本全国に生息しますが、水田地帯の林縁部に多いので県内ではどこにでも見られるヤンマです、夕暮れの山道などや稲刈りの終わった田んぼなどを注意して観察してみてください、低空飛翔するヤンマが見られるかも？。



カトリヤンマ (♀)



カトリヤンマ (♂)



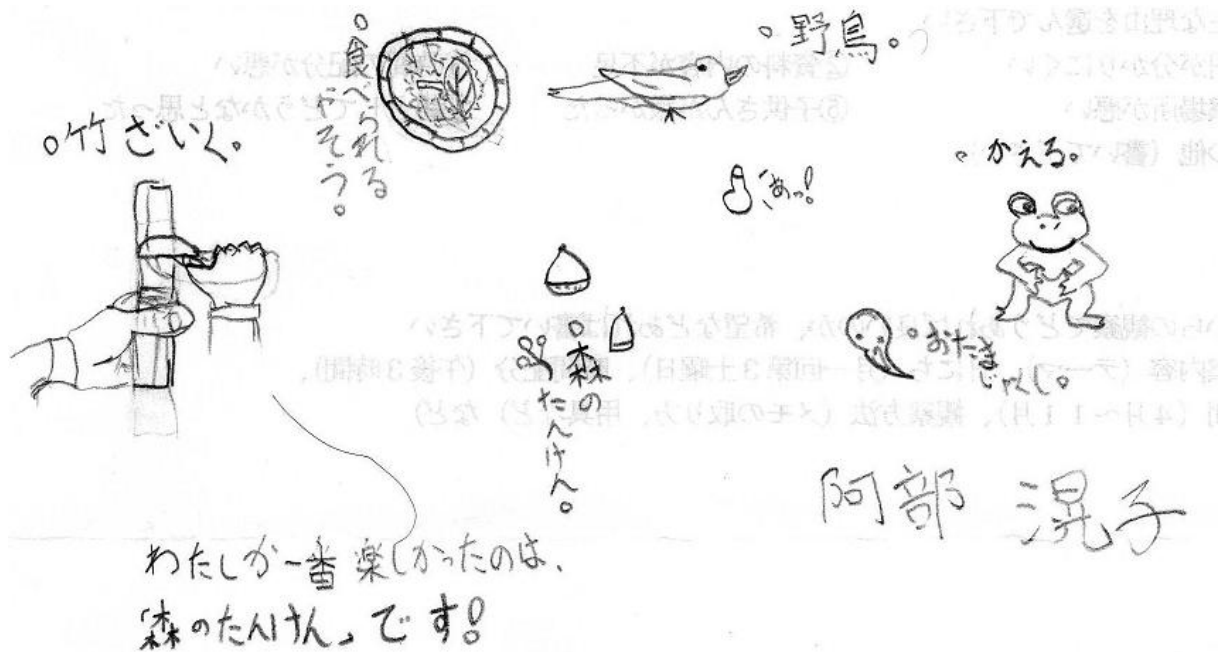
(♀) の産卵状況



連結交尾 上:♂ 下:♀

## 7. 里山自然観察隊のアンケートより抜粋

- いつもありがとうございます。6年目の今年も無事に終わり、気がつけば今年はずべての観察に参加していました。(すごいですね!) 毎年同じ行事でも子供はあきることなく楽しんで、すごいなあと思います。(まあ、券をもらうためにがんばっているところもありますが・・・) 後一年になってしまい、子供の成長を感じとてもさみしいですが、来年も宜しくお願い致します。(N, N)
- 「里山自然観察隊の観察日誌」をいただきありがとうございます。その時その時の様子や観察の結果なども大変詳しく記されているので、不参加の時の様子もわかりいろいろ参考になりました。(T, T)
- 友達に誘われて参加しました。期待通りいろいろな経験をさせていただき、ありがとうございました。最初子供たちが毛虫に刺されたりしたので、次回から行かないなどと言い出したらどうしようと心配しましたが、それも杞憂に終わり、毎回楽しんでいました。また来年も、よろしく申し上げます。(K, H)
- 親の仕事の都合でなかなか全ての行事に参加させてやれず残念でした。しかし、参加して帰るととても楽しかったと目をキラキラさせて、あった事、作った事の話をしてくれるのが、とてもうれしく思いました。もっと会場や行事で出会ったお友達同士がコミュニケーションを取る事が出来る様な方法も(例えばゲーム形式とか) たまにはあってもいいかな? と思いました。(Y, Y)
- いつもお世話になっております。大ぜいの指導者の方々に見守っていただきまして、いつも感謝しております。ありがとうございます。野草、野鳥、昆虫、水中の生き物の資料など、私が見ても勉強になることばかりでした。本当にありがとうございました。(K, A)
- 親子ともども、とても楽しく参加させていただきました。お世話をしてくださった隊員の方々には、本当に感謝をしております。今、自分達が住んでいるまわりにビオトープのような環境があれば、子ども達と毎日のびのびとたくましく育っていつてくれるだろうと、月1回でも自然にふれあえたことに喜びを感じます。(K, R)
- 農作業をしたことが全くなかったので、すべてが初体験で楽しかったです。2度目はもう少し上手にできるようになりたいと親子で思っています。(O, M)
- 一年間大変お世話になりました。親子共々とても勉強になりました。子どもと一緒に参加でき会話も増えました。ありがとうございました。(O, H)
- 子供といっしょに、野草や虫等を真剣に探したり、つかまえたり、大変楽しめました。川の探検は初めての体験で、子供がすごく喜んでいました。森の探検も、色々なきのこが見付けられて面白かったです。ありがとうございました。(K, T)
- 毎回、楽しい行事に親子で参加することができ本当に良かったです。学校になかなか馴染めなくて、友達が少ない息子にとって、会への参加で少しずついろんな子供たちと話せるようになり、それが自信となり、今では笑顔で1日すごせるようになりました。自然の力と、自然を愛するたくさんの人に触れることができたからだと思います。ありがとうございました。(E, Y)
- 自分の子供の頃には、山や、川、田んぼで、一日中、陽が暮れるまで遊んでいたものですが、今、子供には、危ないから、よそのお宅の所だからと言って、自然に接する機会が少なくなっています。厚東川での川の探検では、目を輝やせ、森の探検では、「あれなあに? こんなのがあったよ」と生き生きと動きまわり、本当に楽しかったようです。学校の勉強で「昔の暮らし」をしていて、石うすやソバの脱穀機など体験出来て良かったです。あっという間に一年は過ぎましたが、空の色や山の風景、季節の流れはゆっくりだったように感じます。何年が何十年が経った時に大事な思い出になっているのではないかと思います。有難うございました。(T, N)



#### 8. 会よりの連絡事項 (事務局より)

2・3月の活動は主に修復作業、エコアップになります。水の中に入れるような活動仕度で参加くださるよう連絡します。 工具、材料は事務局のほうで準備します。

#### 9. 編集後記

先の初集会でも述べましたが、会報の継続発刊は大変な苦勞がかかっています。西原編集長におかれましては「里山自然観察隊」隊長も兼ねる事もあって大変であり、それを補うために、昨年さらには編集委員を増員していただきましたが、監視する目が増えかえってどうもよいような修正のため時間もかかった事もありました。今一度増員された編集委員の役割を自覚し早期に伝えていただきたく思います。

又せっかく作った会報は、会員それぞれ隅まで観てもらっていることと編集委員は思っていますが、このあたりも何かの折に皆様にお聞きしたいと思います。

案外“そんなの見ていない”！なんて会員がおおかただったりして？

(原田 満洲夫 記 )

里山自然観察隊は、6年を経てやっと充実してきたかなとの思いはあります。保護者のアンケートを見ても、大体皆満足されており、21年度の参加も希望されています。しかし、私個人への負担が多く、昨年の暮に体調を悪くして、今後もこのまま継続していく自信がなくなりました。1月17日の会合で、継続について担当者で話し合いをもつことに決まりました。安全確保、傷害保険、募集案内と名簿作成、補助金の有無と会計報告、外部団体への登録の要否、年間計画と各観察の責任者などいろいろと決めることが必要で、これらをクリアしないと継続は難しいと考えています。もちろん、私としても、健康である限り協力はするつもりです。より良い話し合いを期待します。

(西原 一誠 記)